

令和3年度 大分県防災功労者 一覧表

大分県 生活環境部 防災局

	功労者氏名	住 所	災 害 名	功 勞 内 容
1	日田市天瀬町赤岩自治会 杉河内班長 平野 一義	日田市	令和2年 7月豪雨	杉河内班(28世帯:74人)の市指定避難所は約6キロと離れており、地域住民の迅速且つ安全な避難のため、隣町の玖珠町の快い理解と協力を得て、6/25から地区に近い玖珠町杉河内小学校(休校中)を自主避難所として開設することとしていた。 7/7の豪雨の際は、同校への迅速な避難誘導により、地区住民が一斉に避難を行った。 また、天ヶ瀬温泉街入口付近で河川氾濫が発生し、近隣の地区住民が指定避難所に移動する事が困難となったため、速やかに同校への避難誘導を行った。 避難直後、地区内で土砂崩れが発生し、全壊、一部損壊する家屋があったが、この自治会と町の圏域を越えた取り組みにより人的被害を未然に防ぐことに貢献した。
2	社会福祉法人 日田市社会福祉協議会長 小野松 晋一	日田市	令和2年 7月豪雨	指定管理者として運営していた中津江村栃野の日田市中津江高齢者生活福祉センターでは、8年前の平成24年7月九州北部豪雨災害の経験を基に避難計画を策定し「警戒レベル3で避難する」ことを習慣化していた。 災害発生前日の7/6、70代から90代の男女3人が入所し、20人程度がディサービスを利用していたが、大雨警報に伴い「警戒レベル3=避難準備・高齢者等避難開始」が発令されたため、いち早くディサービスを休止、入所者3人と職員2人で日田市中津江振興局に避難した。 7日朝には土砂崩れが発生、大量の土砂が施設に流入、介護用車両も7台が埋没する被害が発生したが、この早期避難の習慣化の取り組みにより人的被害を未然に防ぐことに貢献した。